

## 「町田生きもの共生プラン ―生物多様性はじめの一步」

### 2016年度進捗報告書

市では、2016年3月に「町田生きもの共生プラン（以下プラン）」を策定し、生物多様性保全を推進しているところです。プランでは、4つの基本方針とそれに沿った目標を掲げ、目標を実現するための施策を掲げています。また、施策を横断的かつ効果的に推進するための重点プロジェクトを設け、工程表や目標値を掲載しています。ここでは、重点プロジェクトの進捗状況を中心に報告をいたします。

1. 重点プロジェクトの進捗状況
2. 各施策の取り組み状況（資料）

## 重点プロジェクトの進捗状況

### ①生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

プロジェクトの説明	町田市での生物多様性の取り組みの検討の場、情報や資料の収集・発信の拠点をつくります。								
工程表	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
	内容・方向性の検討	ホームページ上に生物多様性のページ作成	(仮称)生きものストップ 1か所目設置	(仮称)生きものストップ 2か所目設置	(仮称)生きものストップ 3か所目設置	(仮称)生きものストップ 4か所目設置	(仮称)生きものストップ 5か所目設置		
指標	市民アンケート調査結果による生きものに関心のある市民の割合	達成目標	40.0% (2021年度)	計画策定時	31.3% (2013年度)	現状値 2016年度末	27.8% (2015年度 28%)	進捗状況	△

#### 2016年度の取り組み状況についての説明

町田市公式ホームページ内に、情報発信の場として「町田市の生物多様性のページ」というコンテンツを作成し、生物調査の結果や市内に生息する生きもの・環境を紹介しました。その結果、2016年度末までに411件のアクセスがありました。市内の生物多様性保全に携わっている団体の紹介記事を掲載することによって、新しいメンバーの募集や、活動のヒントになる情報収集を行う場を提供することができました。また、過去の調査結果や生物多様性に関する情報を発信しました。2017年度以降は、情報収集・発信とあわせ、資料に触れられる場所として、生きものストップ（仮）の設置を開始します。2021年度までに5カ所の設置を目指します。

### ②多様な主体の交流の場づくり

プロジェクトの説明	多様な主体の交流の場である「（仮称）生物多様性フォーラム」定期的を開催します。								
工程表	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
	検討	第一回「未来に伝えよう！町田の生物多様性」	第二回「里山の生物資源利用（仮）」（案）	第三回「ピオトープ」（案）	第四回「生きもの調査」（案）	第五回「外来生物とのつきあい方」（案）	第六回「町田の生物多様性と魅力発信について」（案）		
指標	多様な主体の交流の場の提供回数	達成目標	6回 (2021年度までの累計)	計画策定時	— (2013年度)	現状値 2016年度末	2回	進捗状況	○

#### 2016年度の取り組み状況についての説明

11月23日に第1回「町田生きもの共生フォーラム」を開催し、「都市の生物多様性と次世代への継承」というテーマで基調講演を実施していただいたほか、市内で活動する団体の方に事例報告をして頂きました。また24団体からのパネル出展があり、当日は74名の方にご来場頂きました。生物多様性についての基本的な知識を伝えるほか、市民や市民団体に対して、活動の様子・成果を発表する場を提供することができました。アンケートにも多数ご意見が寄せられ、一定の普及啓発効果があったものと思われます。

## 重点プロジェクトの進捗状況

### ③里山の生物資源利用促進の取り組みの推進

プロジェクトの説明	手入れがされなくなって植生が単調になった雑木林の手入れを行いやすくするため、伐採木等の利用方法などを考えていきます。また、里山の保全や手入れなどを行っている市民などと協働して実施できる取り組みを検討し、実施します。								
工程表	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
	方向性・取り組み内容の検討		取り組みの試験的实施		取り組みの本格的実施				
			生物多様性フォーラムの題材として取扱い(案)	伐採木の製品等試作方法を検討(案)	試作品の作成(案)	試作品の活用方法の検討(案)	試作品の製品化、教材利用等開始(案)		
指標	里山の生物資源利用促進の取り組みの実施	達成目標	取り組みの推進(2021年度)	計画策定時	—(2013年度)	現状値 2016年度末	・情報収集 ・伐採樹木等の一部利用	進捗状況	○

#### 2016年度の取り組み状況についての説明

樹木の伐採更新（萌芽更新）や竹伐採を行い、適正な雑木林になるように管理を行いました。伐採した樹木や竹については土砂流出防止のためのカントリーヘッジとして利用しています。（北部丘陵整備課）  
 里山保全の基礎的技術の普及を目的として、指定管理者と協力し、雑木林管理講習会（入門編）を実施しました。（公園緑地課）  
 団体登録を受付、謝礼金の支払いや物資の支給により、活動の支援を行いました。（公園緑地課）

## 重点プロジェクトの進捗状況

### ④市民協働による生きもの調査の実施

プロジェクトの説明	多くの方に生きもの調査に参加していただき、市内の生きものを知る機会をつくります。						
工程表	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
	調査の実施、調査内容・運営の改善						
		セミの鳴き声調査 ぬけ殻調査	ツバメの巣探し調査	水生生物調査（案）	カエルの卵塊調査 （案）	冬の野鳥調査（案）	どんぐり調べ（案）

指標	市民協働による生きもの調査への参加者数	達成目標	3500人（累計）	計画策定時	参考値 2013年度：99人 2014年度：132人	現状値 2016年度末	2016年度 517人 【累計 804人 (2015年度～)】	進捗状況	○
----	---------------------	------	-----------	-------	----------------------------------	----------------	---------------------------------------	------	---

#### 2016年度の取り組み状況についての説明

生きもの調査 参加者517人 内訳：セミの鳴き声調査335人、セミのぬけがら調査28人、セミのぬけがら調べ（子どもセンター・学童保育クラブ）154人  
 生きもの調査の参加者数が、2015年度末（287人）と比較して、約1.8倍に増加しました。  
 セミの鳴き声調査では、市内で夏に鳴く6種類のセミの分布やピークを把握し、アブラゼミ、ミンミンゼミの声が多く聞かれました。ぬけがら調査では、子どもの施設ではアブラゼミが最も多かった一方、小山田緑地本園ではニイニイゼミが最も多く、環境による特徴がみられました。  
 調査結果については、報告書を作成し参加者に送付するほか、「町田市の生物多様性のページ」で公表しました。参加した多数の市民の方に、身近な生きものにふれあい、調査する方法を学ぶ機会を提供することができました。

### ⑤ビオトープ作庭イベントの開催

プロジェクトの説明	まちぐるみでビオトープを作庭し、イベントを開催します。						
工程表	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
	「ビオトープ作庭イベント」の内容検討					「ビオトープ作庭イベント」の開催（年1回）	
			学校ビオトープの見学	生物多様性フォーラム の題材（案）	エコフェスタ等 イベント出展（案）	ビオトープ コンクール開催（案）	

指標	イベント参加主体数	達成目標	50	計画策定時	—（2013年度）	現状値 2016年度末	内容検討	進捗状況	○
----	-----------	------	----	-------	-----------	----------------	------	------	---

#### 2016年度の取り組み状況についての説明

市民団体との連携により、ビオトープの概念についてより広い視野を得、また情報収集をすることができました。今年度も収集した情報を参考にしながら、市民が実践できるビオトープ作りの検討を継続していきます。

# 各施策の取り組み状況

資料

基本方針1 意識高揚 ～理解する～

目標 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします

成果 生物多様性情報拠点機能として、町田市ホームページ内に「町田の生物多様性のページ」を開設しました。また、第1回「町田生きもの共生フォーラム」では、「都市の生物多様性と次世代への継承」をテーマとした基調講演をしていただいたほか、市内活動団体から多くの活動報告を頂き、来場者に市内の生物多様性について幅広い内容を伝えることができました。また、学校教育部をはじめとした多くの部署において、子どもたちが生きものや自然にふれあい学習する機会を提供しています。さらに、市内の様々な地点で、自然観察会が実施され、生きものや自然に親しむ機会が提供されています。今後は、事業者へ向けた普及啓発をしていくことが課題です。

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	1	①	★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	小野路宿里山交流館土蔵において、小野路の自然についての企画展示を実施し、小野路の自然に興味を持つ人に対して小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課
1	1	①	★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	がにやら通信NO208号から220号を発行し、約620部館内で配布来園者に四季おりおりの情報を発信しました。毎月の発行を楽しみにされている方もいられ観察会の予定等の情報も発信できました。	公園緑地課
1	1	①	★忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	忠生がにやら自然館および小野路宿里山交流館にて、生きもの調査や町田生きもの共生フォーラムのチラシを配布しました。忠生がにやら自然館および小野路宿里山交流館にて各30部配布しました。	環境・自然共生課
1	1	①	★イベント等における自然に育まれた歴史や文化に関する情報の発信	小野路宿里山交流館において、小野路等の歴史に触れるツアーや小野路周辺の観察会等のイベントを実施し、小野路の自然に興味を持つ人に対して小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課
1	1	①	★登録文化財制度による市内の生きものの情報発信	2016年度中、全4回文化財保護審議会を実施した。2016年度中は自然誌にかかる議題が発生しなかったが、次年度以降も学識経験者を委嘱して議題に対応できる体制を維持していきます。	生涯学習総務課
1	1	①	★町田市の生物多様性に関する情報の普及啓発資料の作成	ホームページ上に情報発信のため「町田市の生物多様性のページ」というコンテンツを作成し、生物調査の結果や市内に生息する生きもの・環境を紹介しました。2017年1月のコンテンツ公開後、2016年度中に411件のアクセスがありました。また、団体紹介ページについて、「こういうコンテンツがあるのが良い」という感想をメールフォームでいただいています。「町田生きもの共生フォーラム」の記録集を作成し、ホームページでの公開や図書館等に配置しました。町田生きもの共生フォーラムに参加した方や、興味を持った一般市民が、講演・報告の内容、団体の展示物を知ることができるようになりました。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	1	①	・外来種の飼育に関する情報の発信	ホームページにて、外来種についてのコンテンツを作成し、ミシシッピアカミミガメ等生態系に被害を与える外来生物の写真や特徴を掲載しました。外来種の飼育に関する基本的な情報を市民に向けて発信することができました。	環境・自然共生課
1	1	①	★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信	ホームページにて、外来種についてのコンテンツを作成し、アレチウリ等特定外来生物や生態系に被害を与える外来生物の適正な取り扱いについての情報を掲載しました。外来種の取り扱い・ルールに関する基本的な情報を市民に向けて発信することができました。	環境・自然共生課
1	1	②	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	1	②	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	1	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	1	②	★事業者向け普及啓発資料の作成	未実施(市民向けの普及啓発を優先し、事業者向けの普及啓発についてはまだ着手していないため)	環境・自然共生課
1	1	③	★生物多様性に関する資料・情報や環境保全活動等に関する情報を収集・発信する仕組みづくり	重点プロジェクト①参照	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	1	④	・町田市農業祭の開催	11月に町田シバヒロにて町田産農畜産物の販売や・品評会等を行い、市民に町田市の農畜産物をPRしました。5,550人の来場があり、多くの方に町田産農畜産物のPRを行うことができました。	農業振興課
1	1	④	★市民協働による生きもの調査の実施	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
1	1	④	・町田エコフェスタ等環境イベントにおける生物多様性に関するイベントの実施	・エコフェスタで、セミのぬけがらを見分けるイベントや生きもの調査結果掲示をしました。幅広い年齢層がぬけがらに興味を持ってブースに立ち寄り、普及啓発効果がありました。 ・「町田生きもの共生フォーラム」を実施し、「都市の生物多様性と次世代への継承」というテーマで基調講演をしていただきました。また、市内で生物多様性に関する活動団体の方に、事例発表やポスター展示で活動報告をしていただきました。・当日は74名の聴講者と、24団体のパネル出展があり、盛況となりました。生物多様性についての基本的な知識や、市内の各団体がどのような活動をしているのかを知る機会を市民に提供することができました。	環境・自然共生課
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	【星空観望会】 ・まあち(子どもセンター・町田地域)では、11/12、2/18に市内の方にご協力いただき実施。市街地でも望遠鏡や双眼鏡を使い工夫すれば自然に親しめることを参加者に知っていただきました。 【幼児向け芋ほり】 ・ばあん(子どもセンター・南地域)にて、10/21に近隣の農家の方のご協力により実施。土の感触や収穫の楽しみを参加者に知っていただきました。	児童青少年課
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	【科学クラブにおける生物・地学系講座】 虫や天気を題材にした講座を6回実施。講座を通して生物・地学への興味のきっかけ作りとなりました。 【自然素材を用いた工作講座】 ひなた村の自然素材用いた工作講座を3回実施。主にひなた村の自然素材を使用し、子どもたちの創造性を育むことができました。	児童青少年課 (ひなた村)

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を計11回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」「よく分かった」が全体の92.4%を占めました。	大地沢青少年センター
1	2	①	★生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	セミの鳴き声調査および小山田緑地でのセミのぬけがら調査の実施にあたり、小学校全児童に募集チラシを配布しました。また、子どもセンター・学童保育クラブの協力を得て、施設付近でセミのぬけがら調べを行いました。鳴き声調査については335名、小山田緑地でのぬけがら調査は28名が参加、子どもセンター・学童でのぬけがら調べは154人参加の報告がありました。	環境・自然共生課
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	北部丘陵整備課
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	【キャンプ】 ・ただON(こどもセンター・忠生地区)にて、2/18～19に実施。青少年センター周辺の散策を通して、市内の中でも最も自然が残る大地沢の魅力に参加者に感じていただきました。 【長距離ウォーキング】 ・ばあん(3/19～20) ・つるっこ(10/23) ・子どもセンター合同事業町田市一周チャレンジハイク(3/27～29) ・歩くはやさで、町田市の多様な景観を見て、たくさんの魅力に参加者に体で感じていただきました。	児童青少年課
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	【ネイチャーグループの通年活動】 ひなた村内外での活動を年間11回実施。ひなた村施設内の環境を中心とした自然に触れ、自然の大切さを感じることを通じて、子どもたちの成長につながりました。 【自然体験型講座】 子ども向け4回、冬季自然体験たきび関連を9回、イブニング・キャンプ1回実施。ロープを組んだ綱渡りや、たきび等を通じて、自然の中で学びや体験の機会を提供しました。 【指導者向け講習】 自然体験講座2回たきび関連1回実施。子どもたちを指導するためのロープワークやたきびのスキルを会得してもらいました。	児童青少年課 (ひなた村)
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業の実施主催事業(屋内実施の事業を除く)を、計10回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」「よく分かった」が全体の91.6%を占めました。	大地沢青少年センター

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	2	①	★野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	小山田緑地でのセミのぬけがら調査を実施しました。また、子どもセンター・学童保育クラブの協力を得て、各施設付近でセミのぬけがら調べを行いました。小山田緑地でのぬけがら調査は28名が参加、子どもセンター・学童でのぬけがら調べは154人参加の報告がありました。	環境・自然共生課
1	2	②	★地域ボランティア等との交流による学校ビオトープの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科や理科、総合の学習において、虫やメダカなどの水辺の生き物の観察・飼育を行いました。</li> <li>・地域の方々の協力を得ながらビオトープの整備を行うとともに、児童が学習等で活用しました。</li> <li>・「ホタルの鑑賞会」を行いました。また、幼虫や成虫の放流を行いました。</li> </ul> ビオトープの管理をし、生き物と触れ合うことを通して、自然の仕組みを学ぶとともに、動植物への愛着の心を育てることができました。	指導課
1	2	②	学校における農業体験の推進	地域の農家や保護者の協力を得ながら田や畑を耕し、米や野菜を育てて食べる活動を行いました。 ・米作りでは、田んぼの管理とは別に、一人一つ自分の稲を持ち、水の管理と観察を行いました。収穫後に残った藁を使って「しめ飾り」を作るなど、副産物を有効活用する取組を実施しました。 農業体験活動を通して、児童の食文化や健康について理解を深めました。また、自分の稲を持つことで、近くからの観察が可能になり、稲を大切に育てようとする気持ちを高めることができました。	指導課
1	2	②	・生きものとふれあうことができる場づくり	朝、中休み、放課後にヤギの小屋の掃除、えさの取替え等を輪番で行いました。輪番ですべての児童が経験することにより、一人一人がヤギとかかわることができ、ヤギの習性を学んだり、動物への愛着の心を育てたりすることができました。	指導課
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	相原地区の自然環境保全団体の方に指導をしてもらい、共有林の歴史、小学校との関係について話をしてもらいました。また、下草刈りや木の生長の測定の仕方の指導、間伐の体験等を実施しました。林業体験を通して、木の特性を学ぶとともに、学校が地域と結びついているという実感や、森を守っていこうとする意欲を育てることができました。	指導課
1	2	②	・地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	北部丘陵整備課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
1	2	③	・フットパスの普及促進	<p>まちだフットパスの道標を2基設置しました。 小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。</p> <p>・小野路エリアに関しては一定の基盤整備が進んだが、全市的にはまだまだ不十分な状態となっています。 ・里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。</p>	産業観光課
1	2	③	・自然観察会の実施	<p>下記のとおり自然観察会を実施し、幼稚園生からご年配の方まで幅の広い参加者に自然観察を楽しんでいただきました。</p> <p>自然観察会の実施状況</p> <p>忠生公園：年間12回中9回開催 参加者数285名</p> <p>かしの木山自然公園：4回開催 参加者数50名</p> <p>野津田公園（指定管理者自主事業）：9回 参加者数99名</p>	公園緑地課

## 各施策の取り組み状況

資料

基本方針2 人材育成 ～育つ～

目標 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全活動を行う人材を育てます

成果 町田市の自然環境や生きものに詳しい人材を把握するため、「町田市の生物多様性のページ」の中で、市内の活動団体の紹介記事を掲載しました。また、市民協働による生きもの調査の実施や環境学の講座を通して、市民が自主的に保全活動に参加できるよう支援を行いました。ネイチャーリーダー講座として、子供たちを指導する指導者を対象に、自然体験講座等も実施されています。農業面では、農業研修や経営相談等の支援により、将来世代を担う農業者・援農者を育成しました。今後は、把握した情報を活用し、市内で活動する人材の活躍の場を作っていくことが課題となります。

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
2	1	①	★町田市の自然環境や生きものに詳しい人材の把握と活用	2017年1月に「町田市の生物多様性のページ」を公開し、市内の生物多様性保全に携わっている団体の紹介記事を掲載することで、町田市の生物多様性に関するイベント情報や団体の活動情報について、一元的に情報収集・発信ができるようになり、保全活動の担い手の発掘と育成につながる仕組みができました。  また、「町田生きもの共生フォーラム」では、生物多様性に関する活動団体の方に、事例発表やポスター展示で活動報告をしていただきました。市内の自然環境に詳しい人材が活動する市民団体を把握し、発表等により市民・団体が情報を共有する機会を提供できました。	環境・自然共生課
2	1	①	★ネイチャーリーダー講座の実施	ひなた村において、子どもたちを指導する指導者向け講習として、自然体験講座2回、たき火関連講座を1回開催しました。	児童青少年課(ひなた村)
2	1	①	★市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
2	1	①	・環境講座の実施	まちだ市民大学HATSの連続講座(環境学)を通して、市民が環境問題を身近な課題として考え、自主的に保全活動に参加するよう支援しました。その一環として、2016年6月19日、7月10日の2回にわたって、鶴見川流域の水生生物の生態系について、現地調査(体験学習)を実施しました。  環境講座の体験学習を通じて、受講者に水生生物が棲みやすい環境を守り続けていく活動の大切さを学んでもらいました。	生涯学習センター
2	1	②	・援農者、新たな担い手の育成	2016年度は第6期生11名(2年目)、7期生8名(1年目)の研修を行いました。 第6期生11名は研修を修了し、修了式を行いました。今後、農業の担い手として活躍が期待されま す。	農業振興課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
2	1	②	・意欲のある農業者の支援	<p>意欲のある農業者に対して経営相談等の支援を行い、20名を認定農業者として認定しました。</p> <p>意欲ある農業者の支援を行い、農業の担い手育成をしました。</p>	農業振興課

## 各施策の取り組み状況

資料

基本方針3 協働・連携 ～つながる～

目標 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります

成果 市全域にわたる多様な主体の協働・連携の基盤を整備するため、生物多様性の情報拠点機能として、町田市ホームページ上に「町田市の生物多様性のページ」を開設し、また多様な主体の交流の場として「町田生きもの共生フォーラム」を開催しました。また、北部丘陵地域の市民との協議のうえ、町田市北部丘陵活性化計画アクションプランを制定し、交流・回遊拠点の整備や農地活用について、推進事業を具体的に定めました。さらに、市内の調整池では下水道用地アダプト活動をしている市民団体による清掃活動と生きもの調査活動が実施され、市街地ビオトープの好事例となっています。

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
3	1	①	★市民協働による生物多様性保全に関する取り組みの実施	「町田生きもの共生フォーラム」を実施し、生物多様性に関する活動団体の方に、事例発表やポスター展示で活動報告をしていただきました。また、2017年1月に「町田市の生物多様性のページ」を公開し、市内の生物多様性保全に携わっている団体の紹介記事を掲載しました。市民や市民団体に対して、活動の様子・成果を発表する場、また、新しいメンバーの募集や、活動のヒントになる情報収集を行う場を提供することができました。	環境・自然共生課
3	1	①	★市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト③参照	環境・自然共生課
3	1	②	・市民による河川の清掃活動の推進	境川クリーンアップ作戦実行委員会からの依頼により、境川クリーンアップ作戦2016の実施に関する情報を広報まちだ7月11日号及び市のホームページに掲載し、市民等に情報を発信した。	下水道総務課
3	1	②	・市民による水路の維持管理の支援	町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに2団体と協定を締結しました。この2団体はともに下水道用地でのアダプト活動となります。水路でのアダプト活動の実績はありませんでした。高ヶ坂松葉調整池で活動している団体（鶴見川源流ネットワーク）については池の清掃活動だけでなく、生きもの調査活動も行いました。（定例活動は2ヶ月に1回です。）	下水道管理課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
3	1	②	★生物多様性に関する情報の提供	2017年1月に「町田市の生物多様性のページ」という生物多様性の情報発信コンテンツを作成、公開しました。市内の生物多様性保全に携わっている団体の紹介記事や、「町田生きもの共生フォーラム」の内容等、活動の内容がわかるような資料を掲載することで、町田市の生物多様性に関するイベント情報や団体の活動情報について、一元的に情報収集・発信をすることが可能になりました。	環境・自然共生課
3	1	③	★市民や市民団体が活動内容の発表や情報交換等の交流を行う場づくり	重点プロジェクト①、②参照	環境・自然共生課
3	1	③	★市民協働での里山管理の仕組みの検討	地元や市内での協議を行い、町田市北部丘陵活性化計画アクションプランを策定しました。交流・回遊拠点の整備、農地のさらなる活用、山林の維持管理や活用等を進めるための推進事業を具体的に決めました。	北部丘陵整備課
3	2	①	★大学や事業者との連携による啓発事業や調査等の実施	未実施(大学や事業者との連携については検討段階にあるため)	環境・自然共生課

## 各施策の取り組み状況

資料

基本方針4 保全と持続可能な利用 ～守る・活用する～

目標 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します

成果 町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの中で、「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」を重点事業として定めたほか、鶴見川領域および奈良ばい谷戸において環境再生事業を実施し、生きものやその生育・生息環境を保全しました。また、市内の特別緑地保全地区の用地取得により、生物多様性保全上重要な緑地面積が増加しました。市内の自然環境や農地を生かし、自然観察やウォーキング、農業体験等を通じて生物多様性の恵みを利用する取り組みを実施しました。さらに、鶴間公園再整備の計画をまとめるさい、市民参加型公園ワークショップを5回実施し、既存開園部分のみどりを生かした計画としました。

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	1	①	・里山環境再生事業の実施	鶴見川源流域及び奈良ばい谷戸において、環境再生事業を実施しました。雑木林や谷戸の適切な管理作業をすることによって、里山環境の維持保全をすることができました。	北部丘陵整備課
4	1	①	★里山環境再生事業の新規実施地域の検討	町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの策定にあたり、里山環境再生事業を新規に行うための仕組み作りについて、地元や庁内と協議を行った。町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの中で、「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」を重点事業として定めた。	北部丘陵整備課
4	1	①	・町田市ふるさとの森の保全	生物多様性保全に配慮した管理活動を行う市民団体を支援しました。また、2016年7月に土地開発公社との間で七国・相原特別緑地保全地区用地(旧ふるさとの森)の買戻し契約を締結し、用地を取得しました。2016年度の取得により、七国・相原特別緑地保全地区区域内の用地取得を全て完了しました。	公園緑地課
4	2	①	・市民による河川の清掃活動の推進【再掲】	境川クリーンアップ作戦実行委員会からの依頼により、境川クリーンアップ作戦2016の実施に関する情報を広報まちだ7月11日号及び市のホームページに掲載し、市民等に情報を発信した。	下水道総務課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	2	①	・下水処理における適正な水処理	<p>鶴見川クリーンセンターでは、1年を通じて窒素の削減に努めました。成瀬クリーンセンターでは、段階的・高度処理の実証運転に取り組みました。</p> <p>結果、今年度は2処理場とも処理水中の窒素含有量が13mg/l程度の良い結果を得ています。概ね1年を通じて安定して良好な処理水質を確保しました。これにより河川の良好な水質の保全に寄与しました。</p>	水再生センター
4	2	①	・市民による水路の維持管理の支援【再掲】	<p>町田市下水道用地等アダプト事業の推進と支援を行いました。今年度は新たに2団体と協定を締結しました。この2団体はともに下水道用地でのアダプト活動となります。水路でのアダプト活動の実績はありませんでした。高ヶ坂松葉調整池で活動している団体(鶴見川源流ネットワーク)については池の清掃活動だけでなく、生き物の調査活動も行いました。(定例活動は2ヶ月に1回です。)</p>	下水道管理課
4	2	②	・雨水幹線整備時における水辺環境への配慮	<p>2007年度から整備に着手した小野路1号雨水幹線整備(小野路川(小川橋～岩子橋間)においては、親水施設を整備しました。</p> <p>今後、整備が完了した上流区間(岩子橋～鎌倉街道間)においても、雨水幹線整備を計画していることから、整備区域における親水施設整備を検討してまいります。</p> <p>事業時期については、現段階では未定です。</p>	下水道整備課
4	3	①	・街区公園整備事業	<p>木曾富士見公園の整備工事が完了しました。(仮称)小山沼公園については、工期内に完了する予定です。街区公園の整備が2箇所完了する予定です。</p>	公園緑地課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	3	①	・公園・緑地の整備・管理における生物多様性保全の推進	現地調査や市民要望に応じて、草刈や剪定を行いました。また、雑木林管理者講習会を実施しました。草刈や剪定を実施した結果、市内の緑地を保全することが出来ました。	公園緑地課
4	3	②	・緑の連続性に配慮した街路樹の維持・管理	定期管理により、適切な大きさと枝葉量を保つ剪定を実施し、緑量を確保しました。また、枯れて樹木がなくなった植樹樹等に、高木及び低木を春期、秋期の2期に分け、植栽を行いました。樹木が欠損している箇所がある植樹樹等に植栽を行うことにより緑の連続性が確保されました。	道路補修課
4	3	③	★開発事業実施の際の生物多様性への影響に対する配慮の検討	鶴間公園再整備の基本計画、基本設計をまとめました。作成にあたっては、市民意見を踏まえたものとするため、公園ワークショップを5回開催し、再整備後の景観形成の考え方を市民等へ示すため「景観形成の考え方ノート」を策定しました。既存開園部分は、市民等の意見を踏まえて、現在のコンセプトを大きく変えず、ゾーンごとに、みどりを活かした計画としました。	都市政策課
4	4	①	★市内の生きものの生育・生息状況の把握	セミの鳴き声調査および小山田緑地でのセミのぬけがら調査を実施しました。また、子どもセンター・学童保育クラブの協力を得て、施設付近でセミのぬけがら調べを行いました。セミの鳴き声調査では、市内で夏に鳴く6種類のセミの分布やピークを把握し、アブラゼミ、ミンミンゼミの声が多く聞かれました。また、ぬけがら調査は、子どもの施設ではアブラゼミが最も多かった一方、小山田緑地本園ではニイニイゼミが最も多く、環境による特徴がみられました。	環境・自然共生課
4	4	①	★市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	4	①	★生物多様性の現状を把握するための環境指標種*の検討	2017年度に実施する市民協働による生きもの調査の対象としてどういった生きものが適当か、他自治体の事例の比較・検討を実施しました。他自治体で事例が多くみられ、また都市で減少傾向にあると言われているツバメの巣の分布状況調査を2017年度新規に実施することが決定しました。	環境・自然共生課
4	5	①	・外来種の飼育に関する情報の発信【再掲】	ホームページにて、外来種についてのコンテンツを作成し、ミシシッピアカミミガメ等生態系に被害を与える外来生物の写真や特徴を掲載することで、外来種の飼育に関する基本的な情報を市民に向けて発信することができました。	環境・自然共生課
4	5	①	★外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信【再掲】	ホームページにて、外来種についてのコンテンツを作成し、アレチウリ等特定外来生物や生態系に被害を与える外来生物の適正な取り扱いについての情報を掲載することで、外来種の取り扱い・ルールに関する基本的な情報を市民に向けて発信することができました。	環境・自然共生課
4	5	②	・生態系に被害を及ぼす特定外来生物アレチウリの駆除	定期巡回を行い、アレチウリの駆除を行いました。アレチウリの除去を継続的に行い、ほぼ被圧することができました。	北部丘陵整備課
4	5	②	・農業生産に被害を及ぼす特定外来生物アライグマの駆除	特定外来動物の駆除を目的とした捕獲契約ではないものの、結果的に毎年20頭前後のアライグマの駆除が行われています。 農作物被害に遭わないための、防除について啓発活動が課題です。 今後も、被害軽減のため、捕獲委託は継続していきます。	農業振興課
4	5	②	★外来種への対応の検討	未実施(アレチウリ、アライグマ等、具体的な被害が出ているものについてはすでに担当課において対応しているが、それ以外の外来生物については普及啓発段階にあるため)	環境・自然共生課
4	6	①	・農業体験の実施	市民公募を行い、米づくり体験を実施しました。 米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	6	①	・農業体験の実施	米作り農業体験において、田植え・稲刈り・収穫祭を行い、市民及び親子の参加が12組31名ありました。先着順の募集は、1日で募集人員を満了し、参加者からは、好評をいただきました。	農業振興課
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	市民公募を行い、タケノコ堀、サツマイモ堀、ウォーキング等のイベントを実施しました。各イベントに参加することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	北部丘陵整備課
4	6	①	・生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター・かしの木山自然公園定例自然観察会について、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者に楽しんでいただきました。	公園緑地課
4	6	②	・まちだフットパスの利用促進【再掲】	まちだフットパスの道標を2基設置しました。 小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。 ・小野路エリアに関しては一定の基盤整備が進んだが、全市的にはまだまだ不十分な状態となっています。 ・里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。	産業観光課
4	6	②	★ビオトープ作庭イベントの開催	重点プロジェクト⑤参照	環境・自然共生課
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	小学校給食及び中学校給食で地場野菜・町田産米を使用しました。 食や食に携わる人々に対する感謝の心の育成に繋がるとともに、町田産農産物の普及に貢献しました。	保健給食課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	7	①	・生産緑地の保全・活用	5件5筆2,016㎡の追加指定の申請があり、現地調査後に生産緑地としての推薦を行いました。申請した全てが生産緑地として認められ、指定されました。現在の面積は225.87haとなっています。	農業振興課
4	7	①	・町田産農作物の学校給食での活用	町田産農産物の学校給食供給事業に対して補助金を支出することにより、町田産農産物の学校給食への供給量が増加しています。	農業振興課
4	7	②	・減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援	東京都エコ農産物認証制度取得者及びエコファーマー認定者が、市内畜産農家の生産する堆肥を購入する経費について、補助率をそれぞれ5割、2割増して堆肥流通促進事業補助金を交付して支援をしました。 2016年度中に新しく2名の農業者が東京都エコ農産物認証を取得しました。	農業振興課
4	7	②	・田んぼの保全推進	2016年度、103,574㎡の水田に72名の農家が水稻を作付けし、良好に管理された方に水田保全奨励金を交付しました。 水田の保全に向けた、農家の意欲の増進につながりました。 生物の多様性の保全等の機能を有する水田の保全に一定の成果がありました。	農業振興課
4	7	③	・遊休農地のあっせん制度	5件(27筆、0.9ha)の農地あっせんが成立しました。遊休農地の有効活用が図れました。	農業振興課
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	市内畜産農家が生産する堆肥の購入に要する経費に対して補助を行いました。市内生産堆肥226.8tが取引され、家畜ふん尿の資源循環を促進することができました。	農業振興課

基本方針目標	施策	施策	具体的な取り組み ★は新規の取り組みが想定されるもの	2016年度実施状況	課名
4	8	①	・木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	町田市剪定枝資源化センターでは、市内から発生する剪定枝からたい肥を生産しています。環境月間、ルミネ町田屋上イベント(年2回)、エコフェスタ、町田シバヒロ、木曽山崎コミュニセンターまつり、本庁1階イベントスタジオでのたい肥販売によるPR活動を実施し、多くのリピーターの方が来られました。 また、2017年1月から、町田市農業協同組合の5店舗で、袋入り剪定枝たい肥を定常的に販売開始しました。町田ダリア園では、園内歩道の土の上に剪定枝たい肥規格外品(たい肥の粒の大きなもの)を敷いて、雨水対策・防草対策を行っています。	資源循環課
4	8	①	★生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照	環境・自然共生課
4	8	①	★生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照	環境・自然共生課